

# いよいよ授業です

## - 1 規律・環境整備・生徒把握

学習環境の乱れが授業の乱れを生む要因になることも多い。日頃から授業を受けるのにふさわしい落ち着いた環境を作るよう生徒を指導することが大切である。

### 1 教室の規律 - 教師が心掛けること -

- (1) 服装を整え、教師としてふさわしい身だしなみに留意する。「授業では、40人の生徒が1人の先生を50分にわたって観察している」という警句もある。
- (2) 始業のチャイムとともに授業を始め、チャイムとともに終わる。延長はしない。
- (3) 教材を確認して教室に向かう。教師が教材を忘れることは授業の緊張感を薄める。
- (4) 言葉遣いは、丁寧に、はっきりとした口調で話す。
- (5) 生徒を把握する。出欠の確認、服装・教材の点検、健康観察などを行う。
- (6) 「起立・礼」が整然とできない時は学習の指導もしにくい。号令係と間合いを合わせておく。
- (7) 授業の準備を十分行い、授業の目的を明確にしておく。
- (8) 板書計画を考えておく。
- (9) 生徒の名前は4月中に覚える。
- (10) 定期考査の生徒の答えは、考査後最初の授業までに返却する。

### 2 教室の環境整備

- (1) 黒板の準備が整っているか。また、背面黒板に落書きなどなく、掲示物も整っているか。
- (2) 机・椅子は整頓されているか。
- (3) 学習活動に不要なものが教室内や生徒の机の上に放置されていないか。
- (4) 机間指導に妨げがなく、順調にできる状態になっているか。
- (5) 室内の明るさの調整や換気は適切に行われているか。

### 3 授業前の生徒把握

「これくらいは知っているだろう」「中学で習っているだろう」「どうせできないだろう」などの先入観が授業の始まりをつまづかせる原因になる。各単元に入る前に、これから指導する内容について、生徒がどれくらい基礎知識を持っているか、また、どのようなことに興味・関心を持っているかを把握することは、単元の導入や授業の展開を考える上で重要なことである。

#### (1) 事前診断

歴史学習では、人物や出来事について、地理学習では地名や自然環境について、公民科学習では身近な話題や今日的話題についてアンケートを行う。また、中学校の問題集を利用して簡単な小テストを行ってもよい。導入の段階で、基本的な事項について生徒に質問することで代替することもできる。

#### (2) 観察と座席表の作成

生徒の興味・関心や基礎的事項の定着について観察する。また、家庭学習の様子、進路希望、部活動や学校行事での活躍の様子等教師が生徒に対して広く関心を持つ。ある程度生徒の様子が理解できたら、各生徒の興味・関心や理解の程度に関する情報を「座席表」にまとめ、これに基づいて授業展開を考えることができる。

## - 2 机間指導

机間指導では、生徒一人一人の学習状況や心理状況を個別に把握してその場で助言したり指導をするなど、授業をより効果的にすることができる。また、一斉に説明したことが生徒一人一人にどの程度伝わっているか、それまでの授業を振り返る機会ともなり、必要があれば全体に補足説明を加えることもできる。教壇から降りて机間指導を積極的に行いたい。

### 1 机間指導の目的

#### (1) 学習の評価

- ・生徒の学習状況を個別に観察・点検し、その場で診断・評価する。
- ・教科書、教具の点検をする。
- ・板書事項を確実に書写しているかどうかをチェックする。
- ・生徒の理解度を把握する。
- ・作業学習の進捗や取組状況を確認する。

#### (2) 学習指導

- ・個別に指示、助言を与え、個別な質問に答え、必要な資料を提示する。
- ・学習に飽きたり興味を示さない生徒に注意を与え励ます。
- ・良くできている生徒を誉める。一斉授業の中で紹介する。

#### (3) 授業評価

- ・自分の教える姿を生徒の側からとらえ直し、授業を再構成する。
- ・生徒の立場にたって板書事項を確認する。
- ・進捗が速すぎないか、理解不足の生徒が多すぎないか点検する。

#### (4) コミュニケーション

- ・目を掛け、声を掛ける。

### 2 机間指導をいつ行うか

#### (1) 授業開始時

授業開始時に教科書、ノートなどの準備ができているか机間を回り、確認する。また、前時の復習に小テストを取り入れている場合には、机間を巡ることで真剣な態度を作らせることになる。

#### (2) 講義中

教科書を読ませたり、板書事項を写させたり、地図帳で地名を探させたりする際に机間を回り、生徒の学習状況を確認しながら、個別に指導する。

#### (3) 作業学習中

作業学習中に机間を回り、作業の進み具合をチェックしたり、アドバイスをしたりするとよい。個々の生徒に応じた指導をすることができるし、生徒の予期せぬ「つまずき」を見つけることができる。また、グループ学習などでは、話し合いの進み具合やグループ内でうまく協力しているか否かが把握でき、その場で対応することができる。

#### (4) まとめの段階

生徒の側から一緒に板書を見て重要な点を確認させたい。

### 3 机間指導の留意点

- (1) 明確な意図・目的を持って行う。生徒の学習の妨げとならないよう留意する。
- (2) 同じ方向の移動ばかりにならないようにする。
- (3) 全員を見て回る。遅れがちな生徒に重点的に時間をかけ助言する。

### - 3 発問

発問は授業の中で重要な役割を果たす。授業開始時の発問は、その授業に対する生徒の学習意欲に大きく影響を与える。展開部分の発問は、生徒の思考を深めたり、授業の流れを転換したりすることもできる。授業をする前に、生徒の実態や授業の流れを考慮に入れて、授業展開の核になる発問をあらかじめ準備しておきたい。

#### 1 発問とは

発問とは、授業のねらいに向けて生徒の思考活動を組み立てるための教師の「問いかけ」である。従って、授業前に授業の中での発問の体系化・構造化を図るべきで、その場の思いつきや一問一答型の発問を多用することは避ける。

#### 2 発問の分類

##### 【分類例 1】

- (1) 一問一答型発問...事実を単発的に答う発問。例：「関ヶ原の戦いは何年に起きたか。」
- (2) 中核的発問...授業の山場を作る発問。1 時間に一つ。資料などを提示し、生徒の主体的思考を促す。例：カカオ豆の産出国を調べさせた後、「ガーナの子どもはチョコレートを食べることが少ないと聞くが、チョコレートが嫌いなのか。」
- (3) (1)と(2)との中間的発問もあり、1 時間に数回設け、授業を構成する。

##### 【分類例 2】

- (1) 事実・史実など、教科書・ノートを見れば分かる発問  
例：「クレステネスが行った改革は何か。」
- (2) 比較させたり、因果関係に注目させたり、関連性や条件を問う発問  
例：「清朝の洋務運動と日本の明治維新を比較せよ。」
- (3) 生徒の予備知識を探る発問、授業の理解度を確かめる発問  
例：「(授業の導入で)ヒトラーに関して知っていることを述べよ。」  
「(授業のまとめで)ニューディール政策にはどのようなものがあったか。」
- (4) 生徒の知的好奇心を喚起する発問、生徒の持つ常識と相反する事実を提示して発する発問  
例：「(新聞で報道されている問題に対して)知っていることはあるか。」

#### 3 発問をいつするか

##### (1) 導入部

「～を知っていないか？」など問い、学習の雰囲気作り、興味・意欲をもたせる。また、生徒の予備知識の有無を確認する。

前時の要点を復習することで、教科書、ノートを開かせる効果も期待できる。

##### (2) 講義中

「何が原因だったのだろうか」「～と比べて考えてみよう」「結局どうなったのだろうか」などの授業の中心目標の発問を行い、生徒の思考を引き出し、理解を深める。

##### (3) まとめの段階

「どういうことが分かったか」と発問し、理解したことをまとめさせる。「学習したことは、現実社会ではどのようになっているのだろうか」と発問し、発展的に考えさせる。

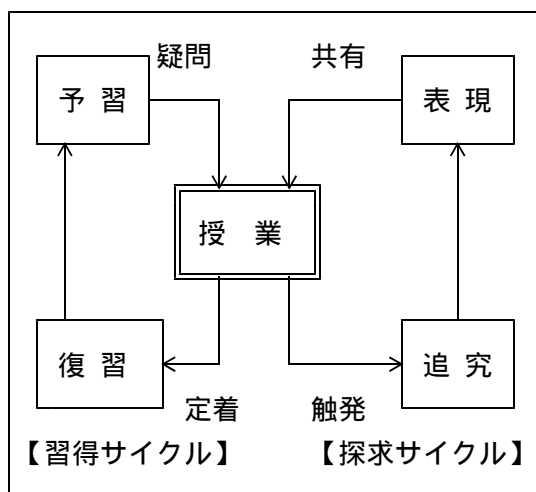
#### 4 発問する際の留意点

- (1) 意図が明確で簡潔明瞭な発問をする。生徒の能力に応じて具体的で答えやすい問いにする。
- (2) 全体に問いを投げかける。その後に個人を指名する。
- (3) 「間」(考える時間)をとる。
- (4) 評価し、誉める。間違った答えでも努力を誉め、間違っていてても積極的に答えようとする雰囲気を残す。

## - 4 宿題の出し方

学校の授業を効果的にするためには、家庭での学習が不可欠である。宿題には、大きく分けて学校で習った知識・理解を定着させるための宿題と、学校で習った単元内容を応用・発展させるレポートなどによる宿題がある。生徒の意欲を高め、理解度をみる機会であるので内容・量・評価規準等を吟味し、生徒が取り組みやすい工夫をしたい。

### 1 学習の「習得サイクル」と「探求サイクル」



市川伸一（『学力低下論争』ちくま新書、平成14年）による分かりやすい図がある。学校で教えてもらったことを確実に定着・習熟するための「習得サイクル」と、学んだことをもとに自分なりに追究して授業に持ち帰りそれを表現して教師からアドバイスを受ける「探求サイクル」である。

「探求サイクル」の学習をしようと思えば、「習得サイクル」の学習も必要になってくるし、逆に「習得サイクル」の学習をしていると、それが「探求サイクル」で生かされる。両者の「バランスとリンク」が重要である。また、いずれのサイクルも授業時間内だけでは完結せず、家庭での学習を組み込む必要がある。

### 2 知識定着のための宿題の工夫

基礎的問題、応用問題などバランスを考える。基礎的問題には、一問一答式問題、穴埋め完成問題などを入れる。応用問題には、資料を使った問題、論述式問題、入試問題などを入れる。

ノートやプリント等を提出させたり、小テストを行うなどして、基礎的な事項が定着しているかチェックする。適時で適切な量の宿題であるか吟味することも大切である。

### 3 知識を応用・発展させるための宿題の工夫

授業中の課題追究学習や長期休業中を利用したレポート提出、授業に関連した図書を読ませレポートを提出させるなどの学習は、生徒の意欲を高め、探求力を伸ばすことができる。

これらの学習に生徒が慣れていない場合、事前指導を丁寧に行う必要がある。課題の見つけ方、参考文献の見つけ方、参考文献の読み方、引用の仕方、レポートへのまとめ方などについて、過去の優れた事例を紹介し、イメージを作らせるとともに、「評価の観点」を事前に示すことも大切である。

レポートをもとに発表させたり、議論させたりして学習を深化・発展させたい。

### 4 課題レポートの評価について

#### (1) 期待できる学力（評価）の観点

【知識・理解】学習した知識・理解を適切に活用している。

【資料活用の技能・表現】主体的に資料を収集し、分析し、事実を考察している。

【思考・判断】多角的多面的な見方や考え方に気付いている。事実を主体的に解釈している。

【関心・意欲・態度】事実を自分と関連付けて考察している。

#### (2) 評価の観点例

現実の課題レポートは、上記の学力が総合的に反映されているので、この観点での評価は困難であり、下記のような具体的な評価の観点や割合例を立てて評価することになる。

形式	(30%)	表紙、参考文献・資料の明示、文字の丁寧さ、提出期限、分量
内容	(60%)	課題・条件に沿った構成・内容かどうか（論旨と資料・理由の整合性）
オリジナリティ	(10%)	設定やまとめ方の創意工夫、資料や文献の収集

## - 5 授業後に行う指導と評価

授業はやりっ放しではいけない。単元の区切り、定期テストなどを機会に生徒の反応を媒体にして、「ねらい」に合った授業ができているかどうか検証し、改善していかなければならない。

### 1 テストの誤答分析

授業がうまくいっているかどうかは、テスト等を実施し、教えるべき内容が定着しているかどうかをみることにより診断できる。生徒の誤答を分析し、どのような分野・事項が十分教え切れていないか確認し、指導の改善に活用する。

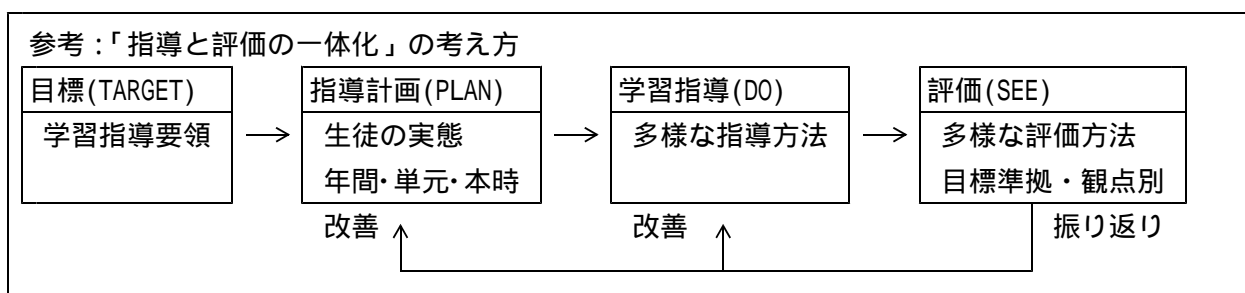
また、個々の生徒の答案を分析することで、個別指導に役立てることができる。学習事項の定着の悪い生徒には、テストのやり直しをさせたり、補充課題を与えたりする。

### 2 生徒による授業評価・自己評価

毎時間、単元の区切り、学期の区切りなどに、生徒に授業評価をさせ、授業全体をバランスよく評価し、問題点を明らかにし、授業改善に役立てたい。生徒の授業への参加態度も記入させることで、生徒の自己評価にも利用できる。

以下のような項目が考えられるが、目的に応じて精選する必要がある。

授業アンケート	【4段階（大変・まあまあ・あまり・全然）で選択評価】
1 授業内容	
(1) 説明は分かりやすかったか。よく理解できたか。【知識・理解】	
(2) 楽しかったか。【興味・関心】	
(3) 体験する場面は多かったか。【技能・表現】	
(4) 思考・発言の時間があったか。【思考・判断】【表現】	
(5) 教具・資料の工夫があったか。【興味・関心】【資料活用】	
(6) 進度、難易のレベルは適切であったか。	
(7) 毎回の授業は、まとまりがあり、ねらいがはっきりしていたか。	
2 板書は理解がすすむようによく整理され、チョークの色も工夫されていたか。	
3 話し方（声の大きさ、明瞭さ、早さ、平易さ、ユーモア）は良かったか。	
4 生徒の扱い（公平、丁寧、誉める・励まし）は良かったか。	
5 生徒の質問、意見に明快に分かりやすく対応したか。	
6 教員の熱意が伝わったか。	
7 学習環境、服装、規律の確保を配慮していたか。	
8 授業を受けて、より興味を持ち、もっと勉強したくなったか。	
9 成績のつけ方は納得がいくか。	
10 授業に対する要望・感想を具体的に書いてください。（自由記述）	
-----	
自らの学習の取組を振り返って（自己評価）	
【4段階で選択評価】	
1 家庭学習を行い、宿題はいつも提出したか。	
2 持参物は忘れたことがなかったか。	
3 授業中は集中し、積極的であったか。	
4 分からないことや興味を持ったことを調べたり、質問などしたか。	
5 今後努力したいことは何か。（自由記述）	



## - 6 居眠りしていたり私語の多い生徒への対応

授業中の居眠りや私語は、最初は少数でも放置しておくとう蔓延し、授業が成立しなくなったりする。個別生徒に原因がある場合は、個に応じたきめ細かな指導を進めたい。教師の授業方法に問題がある場合もあり、研究授業を行い、参観者から意見をもらったり、生徒にアンケートを行い問題点を指摘してもらうなどして、授業を改善する必要がある。

### 1 生徒にも努力を求める

学力をつけるために学校に来て、授業に出席している以上「授業を受ける立場」として守らなければならないルールがあることを理解させる必要がある。教科書を忘れたり、居眠りをしたり、私語をしたりすることは、「個人の勝手」ではすまされない。その生徒個人の学力が伸びないばかりでなく、教室内の他の生徒の学習意欲を削ぎ、学びの雰囲気壊すことにもなる。

その場で注意したり、授業後に個別に面接し、事情を聞くなどして指導したりする。(居眠りや私語をする生徒は、生活指導上の問題を抱えている場合もある。)指導を重ねても、改善されない場合は、ホームルーム担任や学年主任(教務主任)とともに指導するなど学校としての指導も必要になる。

教師は毎時間の授業の準備を万全にし、緊張感のある授業ができるよう心掛けなければならない。また、毎時間の授業が「価値あるもの」であることを生徒に訴え続ける必要がある。

### 2 「学び合い」のための私語

黒板の字が見えにくかったり、教師の声が聞きにくかったりした場合、あるいは教師の説明が間違ったりした場合に、隣同士で教え合うことがある。また、教師の話に興味を持ち、隣同士で感想を述べたりして話が弾む場合がある。これらを生徒同士の「学び合い」ととらえることもでき、ある程度は許容すべきで、これを無理にとがめると生徒との活発なコミュニケーションに支障が出る。ただし、いつまでも本題に返らないようであれば、注意する。

### 3 教師側の課題と授業の改善

生徒側の非をあげつらうのではなく、授業内容、授業方法が生徒の実態に合っているのかどうか、常に検証し、改善する必要がある。

#### 授業妨害をする生徒の「言い分」

授業が面白くない(抽象的)、分からない(不適切な説明)、くどい(精選されていない)。

教師の口調・話のテンポ・声の大きさ等に変化がなく、眠気を誘う。声が小さい。

板書が読みづらくて周囲に聞く。進度が早すぎる。何をしているか分からない。

生徒の活動の場がない。教師が勝手に授業を進める。

生徒を見下す態度や口調を取り、生徒を理解しようとしない。威張る。

- (1) 授業形態、教具を工夫する...参加型の授業、モノ教材の提示、作業学習の取り入れ
- (2) ノート点検、ワークシート提出、小テストの実施...学習活動に緊張感や成就感を与え、学習内容の定着を確認する。小テストや提出物に対して教師がコメントを入れたり、それらをもとに生徒とコミュニケーションを図るようにする。
- (3) 口ぐせ(え～、あの～、など)・テンポ(間)・声の大きさ...教師は、本来「話し方」の専門家であり、特に地理歴史科・公民科の教師は「見てきたように」話すことができなければならない。また、「生徒を感動させる」のも言葉の力による。語彙を増やし、話しの達人になるよう努力する。自分の授業を録音したり、生徒に口ぐせを聞いたり、良い話し方をまねてみたりしながら、明瞭な話し方になるよう何度も練習する必要がある。